

11月10日 金沢で「みんなで歌おう日本の心」

# 野口雨情の

# 叙情の世界に浸る

日本親子の絆プロジェクト2011「みんなで歌おう日本の心」は11月10日、金沢市の北國新聞赤羽ホールで開かれ、野口雨情(1882~1945)が詩作した童謡の代表作が披露されます。時代を超えても色あせず、心に深く染み入る雨情の詩。会場でも口ずさみ、叙情の世界に浸りましょう。

野口雨情は、北原白秋、西條八十とともに「童謡界の三大詩人」と呼ばれます。63年の生涯の中で残した詩は2000点余り。今も、多くの曲が歌い継がれています。雨情は童謡に限らず、日本全国で地方民謡も作りました。石川県内では、「輪島小唄」や「能登上布音頭」、「七尾小唄」、「金沢小唄」、「湯涌狸話」、「鶴来小唄」、「粟津小唄」などを制作しています。



## 野口雨情の足跡

- 1882年(西暦10) 北國新聞原村(現木下町)に生まれる。本名英吉
- 1901年 東京専門学校高等科(現早稲田大学)に入学。校内運動の興隆を受ける
- 02年 学校を中退。この頃から詩作を始める
- 04年 父が村長在職中に死去。郷土に興り歌謡を相模高橋ひろと結集
- 06年 神太へ渡る(その後上京)
- 07年 北海道へ渡り、小樽新聞の記者となる
- 石川啄木と交友
- 09年 北海道から帰郷後に上京
- 11年 母の死を機に帰郷。山林管理などにあたると同時に協議離婚
- 15年(西暦4) 妻に2男を連れ、湯涌温泉の温泉旅館に逗留
- 18年 水戸で中津つとむと結集
- 19年 詩集「静と田園」で詩壇デビュー
- 21年 「金の船」に上京。童謡を書き始める
- 22年 「十五夜お月さん」「七つの子」「赤い靴」発表
- 24年 「あの町この町」「波浮の池」「証城寺の狸囃子」発表
- 童謡集「青い靴の人影」を発表
- 29年(西暦4) 児童詩「波浮の池」を出題
- 雑誌「児童音楽」主幹
- 35年 日本民謡協会を再興。理事長就任
- 40年 全国各地を巡り地方小唄を採集
- 44年 宇都宮市郊外に転居。療養生活に入る
- 45年 死去。63歳

叙情の中の雨情  
西館好子氏(日本女子大学名誉教授)

叙情という言葉にはモダンなひびきがあります。大正時代の童謡運動に負うところが大きいからかもしれませんが、ハイカラ、パタオオが日本文化とよくマッチしてこの時期、野口雨情は童謡とは「童心」になつて詩を書かなかつた。野口雨情が今も歌い継がれているのは、日本の「こころ」が哀愁として生き続けているからでしょう。忘れ去れようとしている叙情という風景に皆さんの心を移してみたいと願っています。

雨情の孫 野口不二子さんがゲストに



野口雨情が今も歌い継がれているのは、日本の「こころ」が哀愁として生き続けているからでしょう。忘れ去れようとしている叙情という風景に皆さんの心を移してみたいと願っています。

「赤い靴」  
赤い靴 はいたた 女の子  
異人さんに つれられて  
行つちやつた

横濱の 埠頭から 船に乗つて  
異人さんに つれられて  
行つちやつた

今では 青い目になつちやつて  
異人さんのお国に  
ゐるんだらう

赤い靴 見るたび 考へる  
異人さんに 逢ふたび 考へる

雨情が新聞記者時代に北海道開拓の女性から聞いた話を基に作られた。「赤い靴」の女性の子どもの、米国人宣教師夫妻の養女となった女児がモデルといわれています。女の子は実際に船を患い、日本でもり歳で亡くなっています。

「七つの子」  
鳥 なぜ啼くの  
鳥は山に 可愛七つの子  
子があるからよ

可愛 可愛と 鳥は啼くの  
可愛 可愛と 啼くんだよ  
山の古巣に 行つて見て御覧  
丸い眼をした いい子だよ

「七つの子」の解釈については、雨情の子どもの「ア羽」の2説がありますが、子を思ふうつくしい愛情をうたつたものであることは確かです。雨情は童謡で「歌謡中に丸い眼をしたいい子だよ」と歌つたところに童謡の境地がある」と記されています。

「シャボン玉」  
シャボン玉 飛んだ  
屋根まで飛んだ  
屋根まで飛んで  
こはれて消えた

シャボン玉 消えた  
飛ばずに消えた  
生まれて すぐに  
こはれて消えた

風 風 吹くな  
シャボン玉 飛ばそ

各家の生まれつた雨情、生家の後継を継いだとき、挫折するも、消えていくものへの哀愁を多く詠みまわした。「シャボン玉」もその一つ。作品は、シャボン玉に興じの子どもの無邪気な様子が題材とされる一方で、生後7日で亡くなった自分の娘への鎮魂歌ともいわれています。

「十五夜お月さん」  
十五夜お月さん  
御機嫌さん  
婆やは お暇とりました

十五夜お月さん  
妹は  
田舎へ貰られてゆきました  
十五夜お月さん  
母さんに  
も一度 わたしは逢ひたいな

雨情の代表作の中でも、童謡の芸術性を高め、認識を高めるきっかけとなった作品といわれています。作曲した本居長世の美しい旋律もよく知られています。

「証城寺の狸囃子」  
証 証 証城寺  
証城寺の庭は  
ツ ツ 月夜だ  
みんな出て 来い来い来い  
己等の友達ア  
ぼんぼ ぼんのぼん

負けるな 負けるな  
和尚さんに 負けるな  
来い 来い 来い来い来い  
みんな出て 来い来い来い  
己等の友達ア  
ぼんぼ ぼんのぼん



千葉県木更津市の證城寺がモチーフ。雨情が地元町長から子どもたちが歌える歌を作してほしいという依頼を受けて作ったとされています。現在の「証城寺」は「証城寺」になったのは、雨情が参考にした文獻が間違っていた、檀家からクレームがついた、證城寺と特定されないよう雨情が配慮した、との説があります。

## 日本の心

学校法人金城学園共済  
日本親子の絆プロジェクト2011  
みんなで歌おう

日時 11月10日(木)14:00~16:15  
会場 北國新聞赤羽ホール 定員500名 入場料無料

実行: 西館好子 (日本女子大学名誉教授)

ゲスト: 野口不二子 (野口雨情の孫、作家)

朗読: 朝倉喜裕 (金沢大学文学部教授)

出演: 周川京子(歌手)、園宮知子(歌手)、長谷川美依子(ピアニスト)

当日アンケートに回答いただいた方にもれなくスチキアプレゼント!

主催/企画: 学校法人金城学園  
協賛/後援: 金沢市、テレビ金沢、ラジオがな、ラジオがな、ラジオがな、金沢ケーブルテレビ